

◎大学3年生

今回、飯田市の南信州・飯田F Sに参加して、まず一番最初に思ったのが飯田の人たちは生き生きして楽しそうというように思いました。初日に飯田りんごんに参加したのですが正直、参加する前は地方都市のお祭りだからそこまで盛り上がっているのかと失礼ながら疑問に思っていましたがいざ参加してみると飯田市民が一丸となって祭りを運営し、また何より楽しんでいるという印象を受けました。また飯田市以外からも大勢の人達が参加していて飯田りんごんや飯田の街に魅力があるからこそたくさんの人々が集まると強く感じます。そして官民それぞれが飯田という街を盛りたてていこうという姿勢が大変印象に残りました。

またこのF Sにおいて一番印象に残ったのは一泊二日の農家民泊です。川手さんという農家にお世話になったのですが普段、市街地中心に過ごしている私にとって薪でお風呂を沸かしたことなど何もかもが新鮮なものでした。またこの過疎地域の様々な問題をその地域に長年住んでいる方のリアルな意見を聴けました。その中でも特に印象に残ったのが「いくら不便で衰退していく地域でも自分の生まれ育った場所だから離れるつもりは無い。」というのが心に残りました。私はゼミにおいて中山間地域の過疎問題について研究しているのですがその中で過疎地域の諸問題の解決手段として集落移転という方法があり、それは過疎地域から市街地に集落ごと移転するというものです。今まではどうしても過疎などの諸問題が解決出来ないなら集落移転も仕方ないと考えていましたが、川手さんにそんなこと口が裂けても言えないとこの言葉を聴いて思いました。机上の論理だけでは人間の心理は量れないということを感じました。その他にも色々なお話を聴いたりできて非常に有意義で楽しい一泊二日でした。

そして、このF Sで一番楽しかったのは他大学の学生との交流でした。全く違う境遇で暮らす人たちと話したりするだけで良い刺激になりました。最初は明治大学といった東京の有名な大学の人達が来ると聞いて不安でいっぱいでしたが、そのような心配は実には取らない小さなものでした。同じ目標の前に学校名とか偏差値は関係無いということを実感しました。深夜までプレゼンテーションに向けて話し合っているときは大変ではあったもののそれ以上に話すことが楽しくてたまらなかつたです。また同じ3年生とは就職活動に関する会話も非常に刺激になりました。

最後にこのF Sでお世話になった飯田市役所の方、農家民泊の川手さんなどF Sに関係する全ての方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

◎大学3年生

8月6日～9日にかけての長野県飯田市での地域インターンシップ、初日は明治、法政、関西大学、立命館アジア太平洋、そして愛知大学。5大学45人で初顔合わせをした。各個人が興味のある分野6グループに分かれた。私は地域の育成に興味があった為、地域自治（市民協働）の班に入った。その日は班のメンバーと自己紹介を行い、その後は昼間にいいだ人形劇フェスタを楽しみながら、夜は飯田りんごんに参加した。飯田りんごんは長野3大祭りの一つで、下伊那最大級のお祭りだけあって1万6千人が参加。飯田という町は田舎のイメージだったがこれだけの人の光景をまさか見られると思わなかつた。飯田市という町がいかにか活気のある町で市民参加型な町であることを思い知らされた。なので過疎化など程遠い町であることと初日はそう思った。その夜は市内の公民館に45人全員で泊まった。

2日目、初日に宿泊した公民館で朝から2時間飯田市長の講義を伺った。内容は飯田市が取り組む様々な町作り、様々な視点から見る活性化等。その後は農山品加工演習として飯田市独特のそば打ち体験を

行った。この日は今回の合宿で秘かな楽しみであった民泊体験をした。我々がお世話になったお宅は、昨日の飯田市街とは全くかけ離れたコンビニはもちろん、信号機すらなかなか見当たらない山奥の過疎地域だった。本当に同じ飯田市なのかと疑問に思う程だった。しかし私たちを受け入れていただいたお父さん、お母さんは本当に優しく、長野県と飯田市をフリップでこと細かく教えてくれた。夕食時、私たちが大学のゼミで学習している集落移転についてまさに生の声としてどう感じるか伺った。すると「今の生活に不便は無く、ずっと生活をしてきたこの大自然の中で暮らしたい」言うものだった。確かにこちらのお宅では買い物は勿論、旅行に出かける際も施錠をしならしい。私はこの実態を知り、そして体感した民泊先近くの大きな滝、騒音のない生活空間、信頼し合える近所付き合いなど町場に出たくない理由がよく分かった。

3日目民泊先を後にして再び飯田市郊外へ。飯田公民館で1日に5人の方々の話を1時間半程聞いた。中でも飯田市特有の「結いターン」とよばれる他県出身者に飯田市の魅力を紹介して飯田市に永住してもらう活動。飯田市は進学や就職で都会に若者が漏れてしまう為、少しでも飯田市に人を呼び込む政策だ。IターンやUターンはよく耳にするが結いを大事にする町らしい政策だと思った。

3日目の21時～1時、4日目の6時～9時にかけて今回の様々な視点から見た飯田市を初日で作った分野別グループで話し合いまとめレポートを作成した。私の市民協働班はいい大人形劇フェスタは今年で33回目を迎えるが、なぜそこまで続くのか迫及した。その答えは2日目の飯田市長の講義の中にあった。今回3泊中2日宿泊した公民館、飯田市は公民館の町と言っても過言で無いほど公民館が多い。公民館は老若男女だれもが気軽に集まれる公の場。これに目をつけ、各地域の公民館100カ所400講演、無料で人形劇を見られるようにした。これが評判でこの「公民館活動」は瞬間に歴史を重ね、今では飯田の夏を代表するイベントとなった。私たちが導き出した結論は公民館という視点は分散開催出来る。公民館の管理人のイメージは定年を迎えた人が世間一般のイメージだが、飯田市の取り組みは公民館活動の為各公民館に行政の人間を送り続ける。地域の方々の願いと行政の取り組みが33年間続ける秘訣だった。

今回飯田フィールドスタディは飯田市というまちを隅々まで知り尽くし、体験出来、他大学の生徒との交流もできたことで様々な刺激になった。「人」が地域をつくり、動かすそんな町であった。もちろん今年の夏の思い出となったが、就活への武器、将来への一歩そんな学習体験だったと私は考える。

◎大学3年生

私は、愛知県豊橋市で生まれ、21年間豊橋で暮らしてきました。大学3年生のこの夏、周囲の友達には様々な企業のインターンシップへの参加が決まり、自分はこのままでいいのか。自分は何がしたいのか。と考えていた時に知ったのが南信州フィールドスタディーでした。豊橋のことしか分からない自分自身の視野を広げたいと思い、今回のフィールドスタディーに参加させていただきました。

フィールドスタディー期間中の考え深い出来事は、3日目の夜に行われた「飯田市への提言」まとめの時間です。グループごとに集まり各々の意見を自由にかわすことが出来たこの時間は、私にとってとても充実した時間でした。チームには様々な大学の学生がいて、みな出身地もばらばらであり、留学生もいました。育ってきた環境が違うとこんなにも考え方が変わってくるのかと驚き、大きな刺激を受けると共に、自分の考え方に偏りがあると気づく機会になりました。大学の授業で行うディスカッションや友達との会話では得られない、自分の中にはなかった意見を聞くことが出来た貴重な時間となりました。

た。ただ一方で、自分たちのディスカッションに夢中になり、周囲の環境を全く考慮していなかったことを反省しています。客観的に考えれば、夜中の住宅街で窓を開け放ち、カーテンも閉めずにいるのは非常識な行為でした。私たち参加学生が早く気づいていれば、地域住民の方々や市役所の方々に迷惑をかけてしまう結果にはならなかったと思います。

しかし、4日間を振り返ると、「楽しかった」という言葉が一番適していると思います。

初めて訪れる土地で、初めて出会う人達と、初めての体験をする。こんなにわくわくする経験は日常生活では得られないものです。全国各地からの参加学生や農家さんとの出会いや、素晴らしい体験をする機会を与えていただいた飯田市役所の方々には心から感謝しております。

心残りなことは、参加前の飯田市についての下調べが不十分であった点です。飯田市に関しての知識がもっとあればさらに深い理解が出来たかもしれない。せっかくの機会を自分で潰してしまったと後悔しています。今後機会があれば再び飯田市を訪問してみたいと思います。

私は現在大学3年生であり、学生生活も残りわずかとなりました。夏休みが明ければ就職活動が本格的に始まります。夏休みのたった4日間。しかしこの4日間は私の学生時代の大切な経験であり、この経験は必ず今後の学生生活に生かしていけるものだと考えています。

貴重な経験をさせていただき、心から感謝しております。ありがとうございました

◎大学3年生

1. 飯田FSを終えて

私は飯田市のFSを通して、飯田市の「行政」「環境」「農業」「観光」「人材確保」などの視点から飯田市の持続可能な発展について学んだ。私は中でも「観光」に興味を持ち、テーマとしてグループ学習をした。

同じテーマでグループ学習するということは、とても良い経験になった。別の大学の学生さんとの交流は自分の視野を広げることができたし、そのメンバーでのグループディスカッションは学んだことをまとめることができた。

4日間の学習でスケジュールはすべて決まっていた、短期間で多くを学べるようなプランになっていた。とても充実したプランであったが、グループのメンバーや農家の人との交流時間が少なかった為、交流の時間が増えるともっと良かった。しかし多くの人から様々なことを聞いたのでとても勉強になった。またたくさん資料を頂いたことにより飯田を知ることができた。

2. 「りんごん祭り」に参加して

お祭りの会場にいた人は地元の人が多かった。また子どもの参加も多く、地元の団体に参加していてもお祭りに積極的だと思った。

私は初めて参加するお祭りで踊りなど分からなかったが、簡単な練習で形になり、とても楽しかった。昼ごろ街を歩いていて外国のお客さんと出会い、その人は3回も参加しているらしいが、未だ踊りが分からないそうだ。そのような人のために私たちの様な練習があれば良いと思った。

3. 飯田FSで学んだこと

まず飯田市の行政は「りんご並木」のようなシンボルを管理し、土台づくりをしている。主体は住民にあり地域全体で飯田市を良くしていこうという様な感じがした。そのため「りんごん祭り」などイベントへの意識が高くなり、住民参加型の街の発展が可能となるのだと思う。

住民参加型にするために、「りんごん祭り」の他にワーキングホリデーや公民館活動があった。ワーキングホリデーは実際に体験せず、農家民泊という形だった。そこで農家の方にワーキングホリデーについて尋ねると「大変だが、都会から来てくれることは嬉しい」と応えてくれた。ここでも積極的な感じがしたし、ワーキングホリデーから農業、自然に魅力を感じて結ターンに繋がるとも考えられる。また公民館活動は使われていない公民館などを積極的に使っていこうというもので、私たちが宿泊し、ディスカッションした施設も有効活用されていた。

飯田市は行政の土台づくりをしていて、そこへ観光者や体験者が参加する。持続可能な発展をするために伝統や文化の継承を地域住民だけでなく、広い地域へと継承すると、新しい取り組みや意見が出るため、より良い発展が期待できる。私たち「観光」のグループは体験したFSから持続可能な発展を考えた。FSに参加した学生が新しい意見を出す。また帰ってから宣伝することで他の人も観光や体験をしようと訪れる。飯田市は住民参加型なので1度FSに参加した学生がお手伝いとして参加することが更に持続可能な発展に繋がると考えた。

この視点から飯田市を訪れて、観光して飯田市の魅力を伝えることができれば良いと思う。

◎大学2年生

最終日、発表が終わってまず感じた事は、「参加してよかった！」ということです。初めは「長野遠いなー」「(前泊含め)5日・・・長い」などとマイナスに捉えている部分もあったのですが、参加してみると新たな発見がとにかく多く、吸収することがたくさんありました。

最終日のプレゼンも、夜遅くまで皆で協力してスライドを作成して。スライド作成時の反省点としては、1) 発言が積極的でない班員の意見も引き出して取り入れたかった。2) スライド作成、文章の考案など一人で請け負いすぎた。という事です。事前に確認し、パワーポイントをある程度使いこなせる人が1班に2人以上いると効率も良くなるのかな、と思いました。

また、フィールドスタディ内で「山・里・街の暮らし」という言葉をよく聞きましたが、「里の暮らし」というのがピンときませんでした。山・里・街の違いを実際に肌で感じてみたかったなと思いました。千代の暮らしは山？市役所のあたりは街？だとしたら里は・・・？もしご説明いただいていたら申し訳ありません。

全体を通しての感想としては、自分自身この5日間で成長できたなと感じました。どのお話も興味深く、発見や吸収がとにかく多かったです。そしてこんなに知らないことがあったのか！と感じ、学習意欲も沸いたように思います。短時間でしたが、スライド作成の技術やプレゼンの技術も少なからず向上したと感じています。また、このような機会がなければ絶対に出会わないであろう方々ともたくさんお話ができて、すごく楽しかったです。本当に、参加してよかったです！

この経験を生かし、今後の大学生活をより有意義なものにしていきたいと思います。

◎大学2年生

飯田市への提言

◆飯田市の問題点

- ・人口減少、都市への人財の流出(→解決策①②③④⑤⑥)
- ・観光の弱さ(→解決策③⑥)

・フィールドスタディについて(→解決策②⑦⑧)

◆解決策

①中学生と高校生が市と対話

→市が若い人たちの考えがわかる機会であり、そして学生が市の方策・考えがわかる機会である。

→若い人がどうすれば残ってくれるか、Uターンをしてくれるか考えるにはまず若い人に関わり市にどういう考えをもっているのか知ること。

→飯田市の学生が市政について興味を持つ。

【課題点】

中高生にとって面倒くさいイベントになってしまったら、逆効果になってしまう。

②フィールドスタディに高校生も

→自分たちの良さは内から気づくよりも外からの方が気づきやすい

→フィールドスタディに参加している大学生にとっても関わる人は飯田市に積極的に関わっている大人の方が多いので、飯田市に住んでいる若い人の意見も聞くことができ、より生の飯田市に触れることができる。

【課題点】

強制的に参加させることは逆効果。

→最初は希望者を募り、もし希望者がいたら参加させるという姿勢で行う。

③飯田市を Youtube で紹介、公式チャンネルを作る

→外に観光地等をPRする。

→加えて内に対して市の取り組み、方策等を伝える。

→活字で紹介するよりも動画で紹介した方が見やすい、頭に入りやすい。

【参考】

塩尻市公式チャンネル、枚方市公式チャンネル

【課題点①】

参考に上げた2つはどちらも再生回数が少ない。

→Youtube を使って『飯田市自慢コンテスト』を行い、動画を募集する。

→飯田市の公式チャンネルを知ってもらう。

→市民の自慢を市民で共有することで自分が市に自信を持つ

【課題点②】

パソコンを使う人が少なかったら見てくれる人が少ない。

認知してもらうことの難しさ。

④③『飯田市自慢コンテスト』の代替案：飯田ケーブルテレビと協働

『飯田市自慢コンテスト』を協力して行う。

→市としては飯田ケーブルテレビに協賛してもらえれば費用が少なくなる。

→ケーブルテレビとしては市民の参加者が多くなればなるほど視聴率があがる。

→市民がより飯田市について考えるようになる→好きになる。

【課題点】

市民が参加するか。

『飯田市自慢コンテスト』の実行。

⑤地方ビジネスプランコンテスト

飯田市にまちづくりを勉強する人が集まる『場』だけではなく、地方での起業を盛り上げる『場』にする。

(↑都市部では企業が多く、その中で成功するためには難しい、それに対して地方では競合する企業が少ない等のメリットがあると私は考えます。今日では不況が続き、就職難であるので、都市だけではなく、地方での雇用を増やすことが大事だと思うので、これから地方での起業が必要と思うからである。)

→地方での起業が増え、飯田だけではなく日本全国の地方の活性化につながる。

→コンテスト時に飯田市へ人を集めることができる。

【課題点】

地方での起業に興味を持っている人がいるのか。

もし興味を持っている人がいても飯田に集まってくるか。

⑥Twitterで情報発信

→挑戦しやすい。

→外に対して観光等をPRできる。

→若い人が情報を気軽に共有できる。

【参考】

会津若松市、東京都三鷹市、志木市、秋田県横手市をTwitterで街おこし

【課題点】

飯田市ではTwitterをやっている人はどれぐらいいるのか。

普及できるか。

⑦フィールドスタディにおいて学校間での交流の活発化

フィールドスタディにおいてアイスブレイク、グループに分けるときのなるべく混ぜる。

→今日の学生は私も含め受け身な人が多く最初から積極的に交流しようとする人は少ない。

→最初にアイスブレイクや五平餅を作る時等グループ分けをする時なるべく学校を混ぜることで交流する機会を意図的に増やす。

→交流を深めることでフィールドスタディでの会話が増え、協力することが増え、士気が高まると私は考える。

→最後の提言への会議の活発化にもつながりいいフィールドスタディになると思います。

【課題点】

強制的に来させられた人をどう巻き込むか。

⑧フィールドスタディの質問のさせ方、主体的にやらせる

↑具体的な解決策は思いつきませんでした。

現在の学生の受け身の姿勢が問題であり、積極性が私を含め今の若い人たちにはないことが課題だと思います。

◎大学3年生

この南信州フィールドスタディを思い返してみるととても多くの事を学ぶ事が出来たツアーだったと思います。18年間暮らしていた地元なのに知らない事もたくさんあって、地元民でも知らない埋もれた宝物はいっぱいあり、多くの可能性を持つ地域なのだと思います。一方で、様々な地域の方と共にこの飯田市について考える事によって地元の人では気付かないような新しい飯田市の良さや課題というものを見出しました。例えば観光の班が最終日の飯田市に対する提言で発表していた、駅からりんご並木への案内板をつくるべきという意見に対して、私はりんご並木にはよく親に小さい頃から連れて行ってもらっていたので気づきもしなかった事ですが、駅からりんご並木までの距離は遠いし、道も碁盤目になっているので初めて来た人には分かりづらいな、とはっとさせられました。外の方の意見はとても重要だと思っているのですが聞く機会というのは私にはほとんどなかったのでこのツアーで聞くことが出来たのは大きな収穫だったと思います。

ツアーの内容的な感想としては様々な立場の方々のお話を聞くことができ、飯田市の取り組みについて多面的に学ぶことが出来てとてもよかったです。私は、特に「地域間の人と人との繋がり」や「地域の人が交流できる場所」について興味を持ち、今後深めていきたい内容だと思っているため、公民館の活動について話して頂いた長谷部さんや人と人との関わりについて話して頂いた桑原さんの話は個人的にとっても興味深く、今後の参考となる話を聞けてとても有意義だったと思います。ただカリキュラムにあまり時間のゆとりがなかったので講演が終わった後に個人的に講師の方とお話が出来なかったのが残念だったな、と思います。

また、その他の残念なこととしては2日目の夕食が定休日などによって選択できるお店がとても限定的になってしまっていた点です。利用可能店舗一覧表を見るとソバのお店が何店舗もあってバラエティのあるように感じましたが次の日にソバ打ち体験をするので定休日を含めると私の中での店舗の選択肢が2店しかなかったのが残念です。また1日目の農家民泊で夕食と朝食に五平餅が出た家があったみたいで次の日の五平餅づくり体験も合わせると3食連続で五平餅という子がいて「五平餅はもう当分見たくない…」と言っていた子がおり、私は昔から五平餅が大好きなので「美味しかった」という印象で帰って欲しかったのでとてもショックでした。なので、食に関しては農家の方との連携も大切なのだと思います。例えば「次の日は五平餅づくり体験をします」といった情報を事前に知らせておくなど…。

最終日のプレゼンに関しては、ただ一方的に講師の方の話を聞いて、体験して終わりではなく学生自ら飯田市について考え発表する機会を作って頂いたのはとても良かったです。これによって学んだ事の整理や考えの共有を学生同士出来ました。また、他大学の方の前に立ち、発表する機会は滅多にないので、とても緊張した反面、とても良い経験になりました。飯田市の事だけではなく、このようなプレゼンの仕方をすれば分かりやすい、といったスキルまでも学ぶ事ができ、人間的に大きく成長させてくれたツアーでした。このツアーを通して今まで以上に飯田市が好きになる事が出来ました。なので、地元の高中生や大学生向けのさらに深めたスタディーツアーを企画して頂き、私のようにもっと多くの人に飯田市の良いところを見出し、好きになって欲しいなと思いました。

◎大学4年生

I. はじめに

まず初めに、今回のフィールドスタディへ参加するにあたって支えて頂いた飯田市職員、市民のみなさん、立命館アジア太平洋大学の銭先生と職員の方のみなさん、参加者のみんな、この感想は伝えたいみんな

なに届かないだろうけど、私は有意義な時間と出会いを長野県飯田市で経験することができました。本当にありがとうございます。この出会いがこのときばかりのものでなく、これからに生きるものになればよいなと私は思います。

II. 参加のきっかけ

2011年3月11日、日本は凄まじい災害を経験しました。その影響は今でも、これからも続いていきます。日本は「先進国」として世界に存在するつもりでした。私を含む多くの「日本人」もそのつもりでいたと思います。急速に経済発展を続けるアジア諸国に抜かれる日がすぐ来るかも知れない、少子高齢社会をどうするのか、そんな問題よりも早く日本はそのあり方を問われることになりました。

今までの日本の一極集中の発展は、みんなのための政治や地域自治という確固とした土台の上でありませんでした。経済発展を続ける内に、いつの間にか、日本社会は、先人たちや一部の人々の功績を貪る他力本願なものになってしまったのではないかと思います。私が思うことが、日本国民全体の意識かどうかはわかりませんが、私は今まで述べたような問題意識を持ち、このようなことを続けてはいけなしいと思ひ、教育やまちづくりに興味を持ちました。まちづくりを学べば、東日本の復興だけでなく、将来に希望の持てるまち、住み続けたいまちがつくっていけると思っこのフィールドスタディの参加を決めました。

III. 感想

飯田市で過ごした時間は短かったですが、公民館と・・・人と人が結ばれるまちを見せて頂けたことはすごく衝撃的で、温かくて、まだ私にはいいところしか見えていないのだろうと思いつつも飯田を好きになるのには十分で、現地での出会いも含めて本当に良い学びになりました。用意していただいたカリキュラムも「飯田市入門」と言うのにふさわしいような、飯田市の魅力がぎゅぎゅーっとあふれるくらい詰め込まれていて良かったです。まつりにまで参加できて、すごいと思います。あえて文句をつけるなら、私たちがもっと滞在できなかつたことくらいで・・・(笑) 本当に満足しています。

ありがとうございました。

IV. これから

滞在最終日の飯田市への提言では、「OB・OGシステム」というアイデアが複数のグループから出されました。しかも、市の職員さんの話では、これが初めてではないらしい。

それならば、私たちの学びのためにもOB・OGシステムを実現させたらどうかと思う。

私とその取り組みを実現させるとしたら・・・という仮定の話をしたいと思う。

参加者の中にもこれからまちづくりに携わりたいという学生は多かったので、フィールドスタディ後、

- ① まちづくりの学びを深めるため、
- ② 参加者と飯田市との交流を深めるため、
- ③ 参加大学間での交流を深めるため、
- ④ 大学と周辺地域のつながりを考えるため・・・

果てはよりよい社会を築いていくため・・・などなど

このような目的をもって飯田市が用意してくださるフィールドスタディ(以後FSと表記)の直後に学生が主体となって開くFSを開催したい。学生FSは、OB・OGが世話役となり飯田市のFSを補う形で期間中に行けなかつた場所へ行ったり、市民への聞き取り調査をしたり、郷土料理を味わったり、農業体験を

したり、子どもたちと遊んだり、ゆっくりと学生間の交流をしたりできるんじゃないかな、できたらよいなと思う。

2011年度の開催期日を参考に図にすると、以下のようになる。

	飯田市 FS 8月6日～9日	学生 FS 9日～
新規参加者	飯田市のカリキュラムを通してまちづくりを学ぶ	参加は自由
OB・OG	許されるなら OB・OG も講演に参加しつつそれぞれの目的にあわせて調査する	新規参加者の世話役となり、様々な視点から飯田市を知る

さらに言うならば、OB・OGで構成する「まちづくりサークル」を各大学で結成してもよいと思う。大学が周辺地域にどのように貢献しているのかを私はまだ知らないのだが、私たちが大学で座学をしている期間にもまちづくりから離れずに「大学の地域への貢献をどうするか」を「長野県飯田市での学び」を活かして考え、取り組むことだってできると思う。そして、大学間での意見交換や成果発表をしたりすることで、大学にも地域にも学生にもメリットのある活動になっていくと思う。

私の説明はまだ散らかっているし未熟だと思う。学生 FS 中の保険のことや大学間の協力など、具体的に可能かどうかをきちんと調べて述べているのでもない。

しかし、飯田市の FS 後にも「何かやりたい」という学生がいる。

もし、これから許されるのであれば、私は何かしたいという仲間とともに、今述べたような活動をよく計画し、現実のものにしていきたい。

それが、飯田市や私たちの生きる社会への恩返しにつながればよいなと思う。

◎大学4年生

今回参加したフィールドスタディでは、普段で会うことのできない関東の大学の学生たちと協力する機会が持て、はじめはとても不安でしたが、思っていた以上に交流を深めることができました。飯田市の行政に直接関わる方々や、さまざまな政策を担っている人に直接話しを聞くことができるとも勉強になりました。最終日のグループでの発表は、短時間でまとめて発表するというのはとても大変で満足はいく発表ができたとは言えませんでした。今後学校へ帰ってまた学習するための、良い機会となりました。他の班の発表では、自分たちになかったアイデアを得ることができて刺激を受けました。

私の祖父母は飯田市に住んでいて、私も幼いころからよく飯田市に遊びにきていました。りんごや人形劇フェスタにも参加したことがあったし、飯田市のことをよく知っているつもりでしたが、行政の視点から見ると改めて飯田市はすごい街だということを実感しました。今まで以上に飯田市を好きになったし、これからもっと飯田市のことを知りたいと思いました。

今回のフィールドスタディは人数が多かっただけに、移動などに時間を取られてしまったり、宿泊場所が狭くて不便に感じることもありましたが、多くの人と出会えたことは何にも代え難い財産となりました。また、私たちの質問に親身に答えて下さったり、トラブルに対応して下さった飯田市役所の方々をはじめ、飯田市の人の温かさにも触れることができました。

◎大学3年生

まず、今回のフィールドスタディプログラムの中で自分が学んだことについて述べます。2011年の8月に飯田市へ見学しました。飯田市が環境モデル都市として全国的に有名なので、私たちは環境問題に興味を持って、飯田市の太陽光発電に中心して、現代の環境政策を研究しました。太陽光発電を利用すれば、市民たちは環境を保護すると同時に、利益ももらえます。なぜかというと、各家は使わない電気を売れるからです。私は初めてこのような環境政策を聞きました。これは経済と環境の両方面を保障します。実は、現代の環境保護は経済と緊密に連携しています。環境保護は多くの資金が投資されなければならないので、環境政策を広がる時将来の利益も考える必要があります。私たちはこのような環境政策を他の町で施行できるかどうかを考えました。グループの全員は相談したうえで、できないという結論が出てきました。なぜかという、2つの原因があります。一つ目は飯田市は小さい町なので、太陽光発電の施設を普及しやすいからです。二つ目は飯田市の太陽光の照射時間が長いので、1日に多くの電気が生産できます。また、私たちは最後の発表の中に一つの提案を提出しました。これはクレジット制度の導入ということです。以下の図のように、飯田市はCO₂の減少量を企業に売ることによって、もっと利益がもらえます。



そして、私はフィールドスタディのスケジュールについて少し意見を出します。私たちはりんごん祭りに参加し、そば打ちを体験し、農民の家で一泊に泊まった。このような活動で、私は様々なことに深い印象を受けました。例えば、私は農民の家で宿泊するとく、太陽光発電の利用状況を具体的に理解しました。また、りんごん祭りの参加のおかげで、独特な街づくりの挺進する方を学びました。しかし、3日目に講義がちょっと多くなりました。実は、この日に私は何回も眠りました。勉強したことも大変少なくなりました。講義と比べて、私は見地調査のほうが良いと思います。

◎大学2年生

国際関係の専門の私、環境についての問題や現行制度などのものがあまり分らなかったが、今回のフィールドスタディで、飯田市へ行き、現地調査を行い、様々な勉強になった。今回のフィールドスタディは、前のフィールドスタディより物質条件が良くなかったが、別に、非常に良い経験になった。あまり知らない日本人と一緒に公民館で泊まり、温泉を使い、毎日お弁当を食べるという生活は、キャンパスで体験できないだろう。

私にとって、飯田市は、別府より静かで、田舎らしい町だと思う。道も小さい、マクドナルドもない町が私の初めの飯田市への印象だった。しかし、初めの日のりんごん祭りで、飯田市の活力を感じられた。

最も面白いのは、第2日、農泊の日だと思う。農家に泊まり、飯田市の市民たちと直接で話し、飯田市のライフスタイルを感じられた。

最後の日、グループメンバーと一緒にクレジット制度についての提案を飯田市へ提出した。

私は初めて「クレジット制度」を聞いたが、実は、今中国で住んでいる町では、同じのような污水排出量の販売システムがあるそうだ。このような制度は企業の経済利益と町の環境保護政策を合わせ、経済利益の手段で、企業のCO₂や污水排出量を減らすという目標を目指す。

◎大学2年生

日本に来てから、初めてフィールドスタディに参加した。4日間は短かったが、飯田で楽しい時間を過ごした。私にとって、非常に良い経験になった。

飯田市は山に囲まれており、豊かな自然があると思う。そして、私はいいだ人形劇フェスタや飯田りんごんやそば打ち体験といった活動に参加し、飯田の文化に触れるチャンスを得た。そこで私が感じたのは飯田市が地域の伝統的であり、特別な文化を保存し、さらに創造している。そのうえ、このような文化は人と人のつながりになり、感動と人情が生まれた。これは飯田市の一つの魅力だと考える。

4日間の中、最も強い印象を受けたのは農家との交流である。農家が育てた新鮮な野菜を使い、私たちは一緒にBBQをした。そして、飯田市の名物、五平餅の作り方も教えていただいた。野菜も果物も五平餅も本当に美味しかったと思う。農家の方も中国の文化や観光地に興味があるので、様々な話ができた。このような経験は良い思い出になった。

これからは現地で得た情報をまとめ、飯田市における環境と持続可能な街づくりへの取り組み、例えば太陽光発電事業やエコハウスなどについてもっと研究し、レポート及び発表を作成していきたいと思う。

飯田市フィールドスタディへの個人的な意見として、講座を少し減らし、工場や公共施設や観光地などの見学のような実地調査を増やしてほしい。また、学生TAも雇った方がいいと思う。

このように、飯田市フィールドスタディを通し、私は飯田市の美しさと地域住民の温かい心を実感し、他の大学の学生たちとも友達になった。しかも、環境政策や街づくりに関する知識への理解も深まり、良い勉強になったと思う。

◎大学2年生

今回の飯田市におけるフィールドスタディーを私にとってとても有意義な活動でした。3泊4日と時間が短く、スケジュールも多く、時間があっという間に過ぎてしまいました。正直もっと飯田市についてみて回って、もっと他の大学生と交流する時間がほしかった感じます。

今思い返せば、初日が一番印象が深く、体力的にきつかったと思います。飯田市からもっとも遠い別府から十数時間をかけて向かったので、寝不足で初日からコンディションが良くありませんでした。それなのにちょうど飯田りんごんの日でした。午後飯田市を見て回って、私はりんごんのすばらしさに驚きました。市民全体が参加するフェスティバル、老若男女を問わず、積極的に踊りや屋台などの出し物を出し、主要街道を交通規制し、町全体が一色の祭りムードでした。私は飯田は過疎化や高齢化が進んでいる地方都市に過ぎないと思っていましたが、近年の市の行政が行っている活性化の結果が現れたのだと思います。そして、夜のりんごん踊りが祭りのムードをピークにあげました。数万人の人々が町の街道を踊り歩いた風景は壮観であり、これぞ郷土愛だと感じました。

2日目は市長さんの講義がとても勉強になりました。牧野市長の講義は飯田市を総合的に観察してお

り、これから何をすべきか政策も目標も明確だったことに驚きました。今の日本内閣の混迷とは対照的でした。市長は飯田市のことだけに集中し、飯田市ならではの道を歩んでいる事がわかりました。文化、経済、そして環境で自立した都市づくりを行っていること、持続可能な地域にするため人材の確保、資源の確保、文化の確保に関する多くの有効な考えや政策を知る事ができました。

そして午後はワーキングホリデーで、農家の家で1泊させていただきました。

ほとんど食べてばかりで、自分がしたかった農作業はできませんでしたが、農家の暮らしは都会育ちの私には違う世界でとても新鮮で都会では忘れかけた自然を感じました。おかげでいつも何気なく食べていた野菜がどのように育てているのか自分の目で見て、耳で聞いて知る事ができました。

3日目は、公民館や環境、社会について講義を聞きました。私よりも興味があったのは環境政策です。日本を代表する環境モデル都市である飯田市は環境面での取り組みを日本の各市町村をリードするものでした。環境 ISO や太陽光発電など、自分たちの現状と条件を良く知り、他方から積極的に知識を吸収し、今を満足せずひたすら環境保護を行う姿勢はまさしくエコタウンの手本だと思います。環境保護は短期間では決して効果は出ないもので、中長期間を見据えて少しずつ行わなければならないものだと思身をもって知る事ができました。

そして、4日目は各班の発表でしたが、どれも良くまとまっていて勉強になりました。私はこの短期間で、大学の一学期では学べなかったことをいっぱい学べたと思います。もっと時間があればよかったと思いましたが、とても有意義な4日間だったと思います。

◎大学2年生

今回初めて飯田 FS に参加させてもらい、飯田市の市民と一体となって取り組んでいることに素直に驚いた。私は今まで行政と市民が相互性をもって深く取り組んでいくことは難しいことで不可能に近いのではないだろうかと考えていた。しかし今回の FS で、おひさま進歩エネルギーやまちづくりカンパニー、地域ぐるみ環境 ISO、人形劇フェスタ、結いターンなどといった実際の取り組みを知り、新たな地域行政についての視点をもつことができた。行政の呼びかけと市民や企業の実践や取り組みで飯田市が他の行政機関から手本となる市であると感じた。また、農村民泊やりんごんでは飯田市民の温かさや活気強さを身体で感じる事ができた。今回の FS は私にとっても非常に新鮮であり、飯田市のような街が今後増えてほしいと考える。同時に今後自分が行政に携わる職に就くことがあれば、この FS で得たことを生かしたいと考える。

◎大学2年生

今回飯田市のフィールドスタディに参加し、ほかの大学の学生と一緒に勉強ができ、自分がまだいろいろ足りないところがあることを気付いた。フィールドスタディは4日間しかなかったが、先輩たちと飯田市の方々からたくさんのお話を勉強し、とても有意義なフィールドスタディだと思う。

ところが、今回のフィールドスタディの中にいろいろ気付いたことがあって、もしそういったところをこれからのフィールドスタディで直されたら、さらに良いプログラムになるのではないかと考えられる。

まず、私たちのグループで提案した OB、OG 制度だが、初めて長野県飯田市を訪れる学生はたぶん少なくはないと思、OB、OG 制度はフィールドのみんなのサポートにもなり、もう一回飯田市に帰りたく

思う学生にとっても、かなりいいチャンスだと考えられる。Uターンの形でまた飯田市に貢献できる人たちはOB、OG制度を利用したらいいのではないかと思う。

それに、できればスケジュールの調整を工夫したら、もっとすばらしいプログラムになると思う。今回のスケジュールは少しハードではないかと思った。3日目の授業の日についてが、一日中、全部授業ということはたぶんそこまで効率はないうるか、学生のがんばる意識を少なくさせてしまうかもしれない。ふつうに学校で1時間30分の授業といってもなかなか最初から最後まで集中できる人はいなかったが、連続で約10時間の授業は誰にとってもつらいのだろう。だから、授業を3日間の間に平均的に行われれば効率になるのではないかと思う。

もうひとつ気付いたのは交流の少なかったことである。全国の各大学の学生たちは飯田市に集まり、話し合うことによって、自分たちの成長にもなるし、飯田市にさらにいい提言ができるかもしれないが、今回は時間などのことで学生たちの交流や学生と市役所の方との交流が多くはなかった。もっと時間があれば、みんなの仲も良くなれるかもしれないし、飯田市に貢献できるかもしれない。

かといって、フィールドスタディは始まってからまだそんなに時間経っていないので、これからのフィールドスタディは期待されることを想像できる。私も飯田市のフィールドスタディの参加者の一員として、これからまた飯田市に戻って、飯田市に観光という視点からなにか貢献できたら嬉しいと考える。

◎大学3年生

今回のフィールドスタディで、飯田市について様々なことを知ることができました。飯田に来たのは初めてでしたが、最初の印象は「まち並みが整備されているが人があまり見られない」といったものでした。どんな人々が暮らしているのだろうと思いました。最初に市長のお話にあったように「自分の哲学を持った人」が多かったと思います。フィールドスタディでお話を伺った方々の意識が高かったのはもちろんですが、農家民泊でお世話になった方々も飯田について様々な考えを持っているように感じました。公民館のお話を伺ったときにも感じましたが、各自が考えを持って自分たちに必要なことを実践していくという点はとても大切なことだと思います。私は神奈川県出身ですが、飯田のように積極的に自分たちの環境を整えていこうという動きを周囲でそこまで見かけません。規模の違いや私自身の視野の問題もあるとは思いますが、「公民館」の捉え方の違いからも分かるように、飯田の人はその点に関して非常に積極的だと思います。

フィールドスタディのカリキュラムの内容については、本当に盛りだくさんという印象でした。ただ、お話を伺う形のものが大半を占めていたので、講演後に自由にお話ができる時間や、自分たちで実際にまちの人の話を聞く機会があれば、飯田市への提言により活かすことができるのではないかと考えました。個人的には、canvasの桑原さんとお話をしてみたかったですし、りんご並木の世話をする中学生のお話も聞いてみたかったです。

また、五平餅作りの体験プログラムに関してですが、農家民泊ですでに五平餅を作っていたため、結果的に3食連続で五平餅を食べることになってしまいました。ごんべえ邑でお話を伺った後の五平餅作りですので、外すことは難しいかもしれませんが、農家民泊の際に五平餅を作るという内容を統一して盛り込むのも一つの方法ではないかと思いました。

そして、最後の飯田市への提言ですが、もう少し余裕をもって取り組みたかったと思う部分が大きか

ったです。お話を伺うだけで提言をするのはなかなか難しく、やはり自分たちで様々な方の意見を聞いて、それを反映させたいと提言ができればと思いました。どの班も限られた時間の中、自分たちなりの提言ができたと思います。ヒアリング等もっと多く行っていたらより良いものになったと考えます。私を含め9月2日まで飯田に残ったグループは色々とお話を伺う機会があったため、提言に活かすことはできなかったものの飯田についてより多面的に、深く考えることができました。4日間で帰った場合と比較すると、かなり飯田の見方が変わるのではないかと思います。

最後になりますが、今回のフィールドスタディで飯田について知ることで、自分の出身地域を改めて見直す良い機会を得ることができたと思います。飯田にどのような人々がいて、どのような取り組みがなされているかを知ることで、自分の周りはどうなのだろうと思うようになりました。4日間という短い期間でしたが、フィールドスタディを通じて様々なことを学び、考えるきっかけを与えてくださった飯田に感謝したいと思います。

◎大学3年生

この度は南信州飯田フィールドスタディに参加させて頂き飯田市長をはじめ市の職員の方々や農家の皆様、講義をして下さった方々のお話を聞くことができ、多くのことを勉強させていただきました、ありがとうございました。

私が今回の南信州飯田フィールドスタディに参加し最も印象が強かったことに農家民泊があります。農家民泊では、市が掲げている政策や実行している事業、市長が行っていることに対する意見や考えを市民の視点から聞くことで市民の生の声を聞くという貴重な体験となりました、と同時に事前学習においての飯田に対する印象と農家民泊を経験した後の飯田に対する印象が変わりました。

また、ワーキングホリデーや地域活性化プログラムと人材誘導のダイナミズムについてお話を伺い都市からの人材誘導のための産業、農業体験、グリーンツーリズム、観光、それぞれがそれぞれの観点からアプローチすることに加えてそれぞれが重なり適宜結び付くことで新たなアプローチが生まれることや簡単には人材を取り込めず農家の人手不足の深刻な現状を知りました。

そして、五平餅づくりやそば打ち体験は私が住んでいる地域では中々体験することができないので飯田市の名物を自らの手で作ることで飯田市の理想の環境により作られたそばを体感する貴重な経験となりました。また、飯田市はそば処が多いとお聞きし地域で採れたものを地域で消費する地産地消がこのようなところにも現れているということを感じました。天竜峡散策では、戦後の大火から現在に至るまでの飯田市の歴史や歩みを知り、山や川といった豊かな自然を体感することができました。

私は、私の住んでいる地域についてあまり関心がなく、地域の自治や取り組みにも消極的な姿勢でした、しかし、南信州飯田フィールドスタディに参加したことで飯田市の様々な活動を知り、私の住む地域はどのようなことをしているのだろうかといった疑問を持つようになり地域の自治や取り組みについて調べることで地元に対して関心を持つようになりました。そのため、若い世代にもそれぞれが住む地域に対して興味を持ち地域の取り組みに積極的に参加してもらいたいと感じました。

◎大学2年生

感想の前にこの度は大変お世話になりました。今後この経験を生かし、役立てたいと考えています。

まず、この南信州飯田フィールドスタディに関しては予定を詰めすぎではないかと感じました。短期

間でより多くのことを伝えるためには仕方がないと思うかもしれないが、これはかえって逆効果を招きかねないと思います。たくさん話を聞くことに多大な集中力を必要とするため疲労がたまり、その疲労がその日の後半、もしくは後日に影響してしまうかもしれないと考えられるからです。ほかにも道路状況や、講義の延長により全体のスケジュールの乱れへと繋がると考えることができます。金銭面や日程の関係上日数を変えることができないかもしれないが日数の増加、講義内容の削減が必要だと思います。しかし講義内容の削減は飯田をより深く伝えることに影響するのであまりお勧めはできません。

飯田市に対しての印象はきれいであるというものと、交通手段の問題が強いです。

きれいというものはリンゴ並木がきれいである、景色がきれいであるなどといったものではなくゴミが落ちていないことです。つまり環境がきれいであるということが強く印象に残っています。ゴミを掃除している人も見当たらず、環境に力を入れているだけあると感じました。それと同時にゴミがないということは捨てる人がいない、仮に落ちていても拾う人がいるとも考え、南信州飯田フィールドスタディの参加者の感想にも多かった人々の心の温かさも感じることができました。

交通手段では、やはり東京にいるせいか不便であると感じました。何をすることも車が必要であると思いました。交通手段が不便であり改善すると思うという意見が多々あった中、交通手段の不便さが文化を守るという発言があったがそれは違うと感じました。たとえどのような素晴らしい文化や伝統があったとしてもそれを見るのが難しければ文化はすたれてしまうと思います。文化は披露するから文化なのであって、守ってばかりでは守る人の中での小さな文化となり、消えていく運命をたどっていくと思います。飯田という町を守る、飯田という文化を守り、発展していきたいなら交通手段の発展が必要不可欠ではないかと思います。東京からの学生が4時間かかることが大変であると思わなかったという意見も強く印象に残っていますが、今日情報も早く伝わる、移動も楽と様々なものに時間がかからなくなっているため今の時代では4時間はかかりすぎと感じる者が多いと思います。将来、この問題はますます弊害となってくると思います。

飯田には沢山の素晴らしきものがあるためそれが多く伝わって欲しいです。

◎大学3年生

・1日目

飯田の出身ですが、普段なかなか市長のお話を聞く機会はないので、一番楽しみでした。もっと堅い話なのかと身構えていましたが、とても分かりやすく、リラックスして聞けました。時間も2時間とたっぷり、良かったです。飯田を出てからの3年間でずいぶん飯田について知らないことが増えていて、ある意味とても新鮮でした。夕方からは、農家の方の家にお世話になって、有意義なお話をたくさん聞かせていただきました。ワーキングホリデーのことを全く知らなかったのも、とても興味深かったです。受入れ農家と働きに来る人の間にはお金が発生しないという条件の中で、お互いに上手くバランスを保っているのは、すごいことだと思いました。泊めてくださった農家の方はとても温かくて、やっぱり飯田は魅力的な街だなと感じました。

・2日目

朝からハードスケジュールで、1日目の疲れも残っていて、少し体が辛く感じました。お話を聞く中で、暑さと疲れでうとうとしてしまうことが多々あって、すごく申し訳なかったです。せっかくの講義はやはり万全の態勢でしっかり聞きたいと思いますので、もう少し余裕をもったスケジュールにしてい

ただけると、ありがたいなと思いました。キャンパスで聞いた桑原さんのお話は、特に楽しみにしていました。まちづくりはお互いを理解し、歩み寄ることが大切だという言葉が特に印象深かったです。

・ 3日目、4日目

徒歩の移動があって、それがすごく気持ちよかったです。飯田出身の私にとっては当たり前の空気や風景だけど、都会から来た人は、どんなふうを感じるんだろうって思って、聞いてみたりしました。天龍峡のエリアの散策も、すれ違う方たちが温かくて、やさしくて、こんな場所があるということ、全国の人に知ってもらいたいと思ったし、誇りに思いました。グループで分かれての発表準備は、なかなか進まず大変でしたが、他大学の学生と様々な視点から意見を出し合うことにとっても刺激を受けました。

◎大学3年生

このフィールドスタディに参加して一番に感じたことは公民館の役割について、私が思っている以上にものすごく大きなものであるということです。自分のいる地域では公民館については全く活動を行っているのかもわかっていない状況だったけど、今回このフィールドスタディに参加できたことで公民館について今まで持っていたイメージが変わったし、興味もわいてきて自分の地域では公民館がどんな役割を果たしてくれているのかすごく気になり、調べてみようと思いました。

私だけでなく他の人も公民館については自分の地域でどういった活動をしているか知らないと思います。ただ建物があって人が集まる場所程度に思っている気がします。一概にみんながそうとは言えませんが、私はそのうちの一人でした。今回のフィールドスタディに参加したことで、公民館の役割の大きさや素晴らしさに気づくことができました。

今回のフィールドスタディの日程は様々な講義や体験学習がたくさん詰め込まれていてとても良い勉強になりました。しかしなかなかのハードスケジュールで、移動してすぐに講義が始まったりしたときもあったので体力的に厳しい部分も時々あったように思えます。また、講義を聴くだけで終わってしまい質問ができずに終わってしまうということもありました。ひとつひとつが掘り下げていくと公民館の役割のように素晴らしいものだと思うのもったいないと思いました。

だけこのフィールドスタディのカリキュラムを受けることで私は、ひとつ興味を持つことができました。この内容盛りだくさんの講義があれば他の人も何か一つには興味を持つと思います。それから自分で後から掘り下げていくことも可能です。そういった面で私はこのフィールドスタディが飯田市への提言だけではなくて、ここで学んだ内容を自分の地域に持ち帰り、比較し、今後活用できる材料になると思いました。

あとフィールドスタディではないのですが、フィールドスタディが終わった後に市長さんとのお話は自分たちにはもったいないくらいで、色々な話が聞けて良かったです。あのような空間でのお話はなかなかできないことだと思いますが、来年からフィールドスタディに参加した人達があのような雰囲気の中での空間であんなコミュニケーションをとることができれば、よりよいフィールドスタディになると感じました。

最後になりますが、今回この南信州飯田フィールドスタディに参加できたこと大変素晴らしい経験となりました。本当にありがとうございました。

◎大学3年生

今回、南信州フィールドスタディに参加させていただき、飯田市の協働のまちづくりについて色々と学ばせていただきました。

飯田市のイメージとしましては、歩道もきれいに舗装されており、ごみさえ目に留まらないきれいな町だと思いました。商店街を歩いていても、住民の方がお声をかけてくださり、とても嬉しかったです。住民の方一人ひとりがこのようにインターンシップ生や県外から来た人々を歓迎してくれるというのは、町が活性化していくとても大きな要素だと思いました。住民の方々から始まり、このフィールドスタディでお世話になった市役所の方々や農家民宿のお父さん、お母さん、飯田市の色々なお話を聞かせてくださった方々、体験・見学させていただいた施設の方々、バスの運転手さん、皆さん本当に最後まで優しく、正直驚きました。高知の人も優しいのですが、照れくさいのかそれは相手に伝わりにくい攻撃的な優しさで、それに比べて飯田の方は温厚でストレートな優しさを感じました。最後の提言発表でも、大体あのような場では学生視点の甘さなどを指摘されて終わるのですが、飯田市役所の方は全て受け止めてくださり、真摯さも同時に感じました。

カリキュラムに関しましては、振り返ってみるとやはりとてもハードなスケジュールでしたが、様々なコンテンツを組み込んでいただき、充実感がありました。ですので、最終日に出た話ではありますが、内容はあまり変えずに一つ一つを縮小すると学生の体力的負担も少なくなるかと思います。カリキュラムの中で、個人的に良かったことの一つ目は、牧野市長が講義の中で学生を指名して質問形式にしながら話されていたことです。一方的に話すのではなく、会話という感じがして聞きやすかったです。二つ目は、IIDAWAVE ヘッドプロデューサーの桑原さんのお話です。自分の体験、思いなどを交えながらのお話は、飯田市だけでなく、どの地域にも共通することで、現代の生活、今の自分たちの生活を考え直したくなるような内容でした。三つ目は、そば打ち体験です。粉の段階から生地を練っていくのはとても難しく、二人がかりでも大変でしたが、これはなかなか家庭で出来るものではないので、貴重な体験だと思いました。おそばは美味しく頂きましたが、二人で五人前はやはり食べきれないので少し勿体ない気がしてしまいました。

これら三点の他にも、たくさんの大学が集まり、交流できたことはとても良かったです。私事ではありますが、飯田で知り合った学生と一週間経った東京のイベントで再び会い、嬉しかったです。こういったカリキュラムの内容以外に学生の交流の場という付加価値があるのはやはり良いと思いました。他の地域の学生と関わることにより、自分の住んでいる地域以外のことを知ることができ、様々な場面で刺激を受け、その後のそれぞれの学生生活に変化が生まれてくることと思います。

今回は良い経験をさせていただき本当にありがとうございました。

◎大学3年生

南信州フィールドスタディに参加して、たくさんの人と出会い、飯田の文化や取り組みを学び、本当にたくさんの貴重な経験をさせていただきました。内容が盛りだくさんな4日間だったので、いくつか印象に残ったことに絞って書いていこうと思います。

まず、フィールドスタディに参加して、飯田市の印象が大きく変わりました。私は飯田市出身ですが、今回の講義で初めて学ぶことや改めて考えさせられることが多くありました。ワーキングホリデー、グリーンツーリズムなどは初めて知る取り組みで、実際に農家民泊で農家の方からお話を伺うことで実態を知ることができました。また、飯田市の公民館活動や地域自治の仕組みについては、実際に自分が育

ってきた環境が実はすごく先進的な自治の仕組みから成り立っていたことを知って驚きました。地元にいる時は当たり前前に食べていた五平餅やおそばも、実際に作るのは初めてでした。五平餅を焼く囲炉裏の熱さやそばを打つときの香りなどひとつひとつが新鮮で、出来上がったときの味も格別に感じました。今回、たくさんの体験をしたことはもちろん、他大学の学生の意見や感想を聞いたことで、自分が育った飯田の良さがすごくわかりました。今まで友達に出身を聞かれ説明するときは「山ばっかりの田舎」と答えていたのですが、次からはいろんな魅力を話したいと思います。

次に、カリキュラムについてです。4日間本当に充実していて、飯田市の地域モデルの取り組みについて、さまざまな事例のお話を聞くことができました。少し気になったのは、移動などで時間が押してしまうと次のプログラムで調整をしなければならず、講演の時間が短くなってしまいました。できればスケジュールにもう少し余裕が欲しかったです。

最終日の「飯田市への提言」では、それぞれのテーマに分かれてのプレゼンということで、自分の興味がある分野を基に考え・提案ができてよかったです。そして、他の分野からの提案を聞くこともできたので、考え方の視野が広がりました。地元出身者としては、飯田出身ではない人たちの意見を聞くことができたことも新鮮でした。他大学の学生と一緒にプレゼンをすることや意見交流する機会はなかなか無いので、とても有意義な時間となりました。

今回のフィールドスタディでは学ぶことも多かったですが、多くの人に支えられているということも感じました。企画・準備をしてくださった市役所の方々はもちろん、当日の運営や進行を手伝っていた法政大学の学生の皆さん、農家の方や講師をしてくれた地元の方々など、本当に多くの人がいたからこそ自分がこのように学ぶことができたと思います。フィールドスタディに参加できたことに感謝して、この経験をこれからの自分の学習や人生に活かしていきたいと思います。

◎大学1年生

私は、今回の南信州フィールドスタディには、札幌学院大学・法政大学・高知工科大学・沖縄大学による四大学連携のまちづくりインターンシップ「協働のまちづくり」を通じて、参加させていただきました。

私は、北海道から出るのも10年ぶりということもあり、長野県飯田市を訪れるのは、初めてでした。飯田市に対する印象としては、中心市街地の街並みが碁盤の目状に整備されているというところは、私の住む札幌市と共通していて道が覚えやすいと感じました。

初日、2日目あたりは初めての地ということもあり、迷うこともありました。滞在していく内に、段々覚えていき、中心市街地の内、少なくともフィールドワークスタディや四大学連携のフィールドワークで行った場所には迷わず行けるようになりました。

また、札幌にもりんご並木と呼ばれる場所があるのですが、片側二車線の非常に交通量の多い道路の中央分離帯にりんごの木が植えられている為、近くで見るとは難しく、札幌に住んでいながら、植えられているりんごの品種も知らないというのが現状です。

それに対して、飯田市のりんご並木は、車の量が非常に少なく、信号も端と端以外には一切ないので、長野県特産の様々なりんごの品種をゆっくり見ながら、落ち着いて歩きやすい、静かでのどかな雰囲気であるという印象を持ちました。

今回のフィールドスタディの最後にも、「飯田市への提言」というテーマに沿って、初日に分かれたグ

グループごとに発表を行いました。私は所属すべきグループを「産業」ではなく、「生活」にすべきであったと後々思いました。それは、「飯田市への提言」として考えたものが交通など、「産業」よりも「生活」に関するものが多かったからです。グループを選ぶ時にもう少しよく考えるべきであったと反省しております。

ここで、私が考えた飯田市への提言の内、二点挙げたいと思います。生活の面としては、交通の不便さを解消する為の方法の一つとして、中心市街地等へのペロタクシーの導入を提言として挙げます。ペロタクシーというのは、ドイツで開発された自転車タクシーのことです。日本でもいくつかのまちで導入されており、私の住む札幌市でも主に中心部で導入されています。飯田市の環境を壊さず、交通を便利にするには、排気ガスを出さず、自動車やバスと比べてCO₂の削減にも貢献できるペロタクシーが最適ではないかと考えました。

観光・文化の面としては、毎年8月に行われる、いいだ人形劇フェスティバルと飯田市動物園のコラボレーションを提言として挙げたいと思います。飯田市役所から近く、りんご並木の端に位置する動物園の近くの会場で、動物園にいる動物を中心とした動物の人形による講演を行うことで、子供や動物好きの人が集まると考えました。その人形劇を見た後に、動物園に行き、実際の動物を見ることもできるので、動物園の活性化にも繋がると考えました。

カリキュラムの内容についてですが、フィールドスタディに参加する前に、予定している講義に関する事前学習が必要だと感じました。ほとんど知識のない状態で講義を受けてもその時には理解しにくいことが多いと思います。例えば、四大学連携の場合は、法政大学に集合した際に事前学習を行うなど、参加大学ごとにフィールドスタディの事前学習を行った上で、フィールドスタディに参加することで、講義への姿勢や理解度がまた変わってくるのではないかと考えます。

私を含めた、四大学連携のまちづくりインターンシップの参加メンバー6名は、後から引率の先生や市の職員の方々から話をさせていただいたおかげで、完璧とまではいきませんが、ある程度の知識の補完をすることができたと思います。他の学生達はそれができないまま終えてしまっていると思います。例えば、公民館の講義の内容を講義時や講義直後はよくわからない状態だったのが、先生や市の職員、フィールドワークに行った公民館の方々から話を聞くことで、講義時や講義直後よりは理解しやすくなりました。

最後になりますが、自分の住む北海道の人達と比べると、飯田市の方々は、口調が優しく、時には逆に話しかけてきてくれるので、普段は口下手な私にとっては話を聞きやすく、フィールドワークがやりやすかったです。また、今回のフィールドスタディには、四大学連携のまちづくりインターンシップの参加者の他にも多くの学生が参加しており、色々な大学の学生との交流ができる貴重な機会でした。まだ、フィールドワークをやり足りない部分もありますので、機会があればまた飯田市を訪れてみたいと思いました。

◎大学2年生

飯田市全体に対する印象としては、率直に言って惜しいと思った。飯田市を元気にしたいと動いている人がいて、行政もまちづくりに対して意欲的である。それなのに、いまひとつパツとしない、と感じていた。

原因の一つに、観光地の魅力がいまひとつ足りないことが挙げられるのではないかと。天龍峡や人形劇

フェスタなども行ってみたらその価値が分かるのだろうが、なかなか口コミやガイドブックだけではそこまで行きたいという感情が湧いてこない。旅行や写真など、思い出に残す作業が好きな、若い女性向けの旅をプランニングしてみてもいいかでしょうか。人形劇フェスタのシーズンには、人形劇観劇に加えて、温泉やエステを組み合わせたプランを考えたりするなど。

また、最初はファストフードのお店が見当たらずに不満を抱いていた私たちでしたが、中心市街地の素敵なお店を拝見して、とても良い場所だと感じました。これを活かして、例えばどこか都心の料理学校と提携して、料理人の卵を飯田に呼んで、修行させる取り組みを行えばいいのではないかと。都心の若い人が飯田を知るきっかけにもなるし、街に活気も出るのではないのでしょうか。

これも発表のときに皆さん仰っていましたが、やはり移動する際の交通手段が限られていて大変不便だということです。私の地元にもあるのですが、JRのバスに加えて地域のコミュニティバスを走らせることも検討するべきだと思います。

地元の石川県野々市町のコミュニティバスは、バスのキャラクターとしての設定でtwitterまでやっていて、県内外の人から愛されています。そういうキャラクターをつくることも一つの案だと考えます。

カリキュラムの内容としては、とても忙しかったですが、飯田の隅々まで知ることができて、大変勉強になりました。ただ、もう少しグループ間で討論する時間をつくってくれたらもっと良かったと思います。結局発表のグループでちゃんと話し合う場ができたのは、3日目の夜だけでしたので、出来たら1日目と2日目の終わりにも少しでいいので、討論する場を与えていただけたらもっと良かったと思います。

◎大学2年生

飯田市は、地域の人々とのかかわりが広くあり、今田平の方々や、りんご並木を整備する中学生たち、一度は出て行ってしまったもののやっぱり地元が好きで戻ってきたというUターンの方々など、自分たちの力で飯田を盛り上げたいという気持ちがあふれていてとても良いところだと感じました。

まず、私がこのフィールドスタディで一番良かったと感じたカリキュラムは、農家での民泊です。ただ、えらい人の話を聞くだけではなく、実際の農家の方々のお話を聞かせていただけたのが、プレゼンの際にとっても役に立ちました。

カリキュラムがすごく詰まっていて、とても充実していてよかったのですが、3日目の徒歩での移動がとても大変でした。そのためその移動の後の今田平での話を聞く際に少し集中力が欠けてしまい、せっかくのお話をもったいなかったように感じました。

また、泊るところが、班ごとで泊ることができれば、1日目からプレゼンの話し合いなどが進められてよかったなと感じました。2日目の一人部屋などは時間がもったいないと感じました。

今回のフィールドスタディのように、他の大学の学生とともに行動したり、プレゼンを準備したりすることは、普通に大学に通っているだけではできない体験のため、違う考え方の人と話すことができとてもためになりました。

また、これのおかげで飯田市のことを知ることができ、ワーキングホリデイのことも知ることが出来ました。これに参加することがなければ知らなかったようなことばかりです。とても興味深いものがたくさんありました。

最後に、フィールドスタディに参加させていただき本当にありがとうございました。

◎大学2年生

今回の南信州飯田フィールドスタディに参加して様々な講義を通して、飯田の行事や街づくりの方法、政策などを学ぶ事が出来ました。そんな中で一番印象に残っているカリキュラムは農家民泊です。もちろん講義を通して飯田について学ぶ事も重要ですが、農家の方から直接様々なお話を伺うことによって、飯田についての理解がより深まったと思いますし、もっと他の農家の方からもお話を聞いてみたいと感じました。

そのような理由からカリキュラムの中にもっと市民の方や農家の方とお話する機会、例えば、難しいことだとは思いますが農家民泊の日数を増やし別の農家の方にも泊めていただくというようなことができたら様々なお話を伺うことができ、より充実したフィールドスタディになるのではないかと思います。

また短期間のフィールドスタディの中で実施するのは非常に難しいことだと思いますが、農業体験も行ってみたいと感じました。農業は中々簡単に体験できることではないですし、カリキュラムに組み込むことができれば、農家の方にお話を伺う時間が増えたりワーキングホリデーについての理解を深めたりという利点があるのではないかと思います。

次に提言に関わることなのですが、若者が離れていってしまう原因として交通機関が不便であるということあげていた班があったと思います。たしかに都会に比べると交通機関が不便であるのは明らかですが、地方出身の私にはそれほど不便だとは感じられません。私の地元も電車は1時間に1本ほどしかないような地域なので、小さいころからそこで育ってきた私にとってはそれが普通であり、飯田から進学のために都会に出る若者も私と同じように感じるのではないかと思います。そしてやはり私も含め若者が一番心配に思うのは就職口があるのかどうかということです。

ですから若者を飯田に引きとめたり、飯田に戻ってきてもらったりするために、交通機関の整備はそれほど重要でないのではないのでしょうか。やはり就職口をひろげることがUターン者の増加の要になると思います。